

AI 時代におけるアナログの大切さ

吉岡 恵生

奨励者紹介〔よしおか・やすたか〕

日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師

主はこう言われる。

「さまざまな道に立って、眺めよ。

昔からの道に問いかけてみよ

どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。」

しかし、彼らは言った。

「そこを歩むことをしない」と。

わたしは、「あなたたちのために見張りを立て

耳を澄まして角笛の響きを待て」と言った。

しかし、彼らは言った。

「耳を澄まして待つことはしない」と。

(エレミヤ書 6 章 16-17 節)

驚異的なスピードで進化する AI

先日イタリアにおいて G7 サミットが開催されました。先進 7 カ国の首脳が集まるこの会議において、主な議題の一つに AI の国際ルールを協議する議題が挙げられていました。ご存知の通り、人工知能、AI は今驚異的な進化を遂げています。AI を使ったチャットボット、ChatGPT が 2023 年にリリースされたかと思えば、たった 1 年で、今度は ChatGPT4o というものがリリースされました。それまでは、テキストを通じたチャットのやり取りを AI としていたわけですが、今やそれが会話形式で使えるようになったのです。ChatGPT がリリースされた時には「AI が脳みそを持った」と表現されましたが、今では「AI は脳みそだけでなく、目や耳や口も手に入れた」と表現されています。たったの一年で、これだけの進化を遂げた。このことは、世界中に衝撃を与えました。もはや、人間の理解や AI を使う際のリテラシー、あるいは国々の法律なども追いつかないほどの速度で AI は進化をしています。

G7 サミットでは、ローマ教皇フランシスコが演説をしたのですが、この演説の中でも、AI の驚異的な進化に対して警鐘を鳴らすような言葉が語られました。教皇は、AI が人類にとって画期的な変革をもたらしていると評価をしつつも、その使い方や使い道については絶えず注意をする必要があるとして、次のように語りました。「もし人類が AI の選択する答えに依存せざるを得なくなり、自分自身や人生について決定する能力が奪われていくなれば、私たちは希望のない未来に追いやられることになるだろう」。

AI に依存するようになることで、人間はもはや自分で考えるということをしなくなるのではないか。そのことが、どれほど大きな損失になるのか。こうしたことへの危機感が、この教皇の言葉の背後にはあったのだと思います。

AI の進化はこれからも止まることはないでしょう。もはや、AI は人間の手を離れて、勝手に進化して行くような段階を迎えていますから、人間が、その進化を止めたくても、止められないような時代を迎えつつあると言いきかかもしれません。そうした時代において起こること…。それは既に、良いことも悪いことも、様々な映画などで描かれているところですが、もはやそれはフィクションではなく、この現実において十分に起こり得る時代となっている。私はそのようにこの時代を見えています。

もちろん、AI は、私たちの生活をより良いものとするために、これからも大いに期待ができるものですし、既にたくさんの恩恵を私たちは受けています。障がいのある方々の生活をサポートするものとして、また、より充実した教育環境を整えるものとして、他にもありとあらゆる可能性を AI は秘めています。だからこそ今私たちは、これから AI を上手に活用していくために、AI というものの性格をよく知っておく必要があると思うのです。

AI が情報操作をする時代の中で

AI の生みの親として知られる、元 Google の副社長ジェフリー・ヒントンという方は、毎日新聞のインタビューに対して、彼が AI を生み出すに至った思いやその成果について語りつつ、AI の進化が今、彼自身も想像できなかったほどの驚異的なスピードになってきていることを受けて、「AI はいずれ人間を操作し、支配しようとする」と警鐘を鳴らしています¹。

このことは既に、私たちの日常にも関わることでありまして、たとえば「フィルターバブル」や「エコーチェンバー」と呼ばれる言葉があります。フィルターバブルというのは、アルゴリズムがインターネット利用者の検索履歴やクリック履歴などを分析して、利用者の思想や行動特性に合わせた情報を作為的に優先して表示させる現象のことを言います。またエコーチェンバーとは、SNS において自分と似た思想や、興味関心を持つユーザーの情報ばかりを目にすることによって、自分の考えは正しい、これは多数派の考えだと信じ込んでしまう現象のことを言います。たとえその考えがオカルト的であったり、フェイクニュースなどを元にする考えであっても、フィルターバブルによって、そういう情報ばかりが自分の SNS に流れてくるようになりますから、それが真実だと思い込んでしまう。アメリカなどで今、陰謀論者が増えていると言われますけれども、これも、フィルターバブルによって生み出されたエコーチェンバー現象が、大きな要因となっていると言われるのです。

フィルターバブルを作り出すのが AI です。このことによって、もはや人間の思考は操れるようになっている。その意味で、AI は人間を支配するようになったということも言えるわけです。

皆さんも経験はないでしょうか。たとえば友人との何気ない日常会話で、ある商品についての会話があったとしましょう。後日何気なくインターネットを触っていると、その時の会話に出て来た商品が広告として出てくることがあるのです。これは奇遇だと思ってその広告をクリックし、何の疑いもなくその商品を買う人もいるかもしれません。しかし、よく考えてみたら不思議なことです。なぜ、友人と話していた商品の情報が、絶妙なタイミングで私

¹ 毎日新聞オンライン（2023 年 10 月 17 日記事より）

たちの目に飛び込んでくるのでしょうか。考えたことがありますか？これは偶然ではなくて、意図的な出来事であるということを、私たちは知っておく必要があるでしょう。

こうしたことが起こる背景には、たとえばスマートフォンが絶えず、私たちの日常会話を聞いていて、その情報がアルゴリズムにも反映され、以前友人と話していたある商品が、ある時突然インターネットに出てくるといったことが起こる。そういう流れもあるそうです。考えてみたら、「Hey Siri」と言ったり、「Ok google」と言ったり、「Alexa」と呼びかけたら、「はい」と返事をしますよね。アプリを起動させたわけでもないのに、突然呼びかけてもすぐに返事が返ってきます。つまり AI は、私たちの日常会話をずっと聞いているわけです。

そう考えると、私たちが、インターネットや SNS で目にする情報というのは、もしかすると、AI によって誘導された偏った情報だということもあるかもしれない。そしてこのことは、どこまでも繰り返されるスパイラルである可能性もあるのです。つまり、今私が言ったようなことが本当なのかと思う人は調べますよね。では、どうやって調べますか？多くの人が、インターネットを使ってまた調べるわけです。そこで、ある情報を見て安心したり、不安に思ったりする。そして、またインターネットで調べる。私たちの日常は今、検証に検証を重ねるということにおいても、インターネットに頼り、AI のフィルターからたくさんの影響を受けている可能性があるのです。

と言っても、私自身もネットやデジタル端末のヘビーユーザーですし、これを使わないわけにはいかない時代を、私たちは生きています。だからこそ、こうした実情をよく知った上で、絶えず情報を吟味しながら、私たちはこの AI 時代を生きて行く必要があると思うのです。

アナログ的に検証することの大切さ

今日共に読みました聖書には、「さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ。どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ」という、神の言葉が書かれていました。この言葉はある意味では、AI 時代を生きる私たちへの、神からの警鐘として、あるいは勧めとして聞くことができる言葉ではないかと思います。ここには、その神の語りかけに耳を傾けず、神の言葉に耳を塞ぐ人々の姿も出てきますが、本当に、それでいいのか、あなたはどうするのかと、私たちは問われているように思うのです。

アナログという言葉がありますが、これは元々、「連続性のある情報」を表す言葉だそうです。私たちは今、デジタルの時代を生きて、そこに AI の技術が加わって、言わば連続性のない、答えだけを知るような時代を生きていると思います。検索をして、一番上に出てきた情報を一つの答えとして信じる。なぜ、こういう答えになるのか。誰が、いつ、どういう根拠でこういう情報を書いたのか。そういう検証を怠り、検証するとしてもネットで調べ、その答えが出てきたプロセスには目を向けずに、答えだけに目を留めていく。ともすれば、間違った情報や偏った情報を私たちは信じ込んで行くのかもしれない。しかし、本当にその情報は正しいのか、偏った情報ではないのかということを、私たちはアナログ的に、どこまでも連続性のある情報を遡りながら、出所を探し求めていく必要があると思うのです。

今日の聖書で言えば、さまざまな道に立って眺めること。昔からの道に問いかけてみる。その情報が、どこからどのように出てきたのか、そのソースの蓋を開け、どこまでも深く尋ね求めて行くこと。特に大学というところは、このプロセスを大切にする現場だと思います。リサーチ力を養うところ。それが、大学だと私は思っています。皆さんはもうすぐ、試験

やレポートの課題を意識する時期を迎えていると思います。ぜひ丁寧に、できるだけ深く、昔からの道に問いかけ、連続性のある情報を尋ね求め、情報源にまでたどりついて、そこから納得の行く自らの答えを、自らの手で生み出して欲しいと思います。その手間を怠って、デジタルや AI に頼り切った手段に傾倒すると、私たちはもしかしたら、真実から遠く離れた道を歩む一人になってしまうかもしれません。

聖書は私たちの人生に問いかける

聖書という書物は、およそ 2000 年以上前から受け継がれてきた信仰の書物ですが、一方ではこのように、時代を超えて、私たちの人生に対して、大切な問いを投げかけてくれる普遍的な書物でもあります。今日、聖書の言葉を通して、私たちは自らの日常を問われました。今日それぞれに問われたこと、考えたことを心に覚えて、それぞれの日常を過ごしていただきたいと思います。

そして、私は牧師ですから、牧師としてのお勧めを最後にさせていただきます。皆さんは、せっかく、キリスト教主義の、聖書に触れる機会のあるこの同志社で学んでいるのですから、これからもぜひ、皆さんの日常の中で、人生に大切な問いを投げかけてくれるこの聖書を手にして、昔からの道に問いかけてみる。そうした機会を持っていただけたらと思います。